

H27 年度 学校評価結果公表シート

学校法人廣瀬学園
よさみ幼稚園

平成 27 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価を実施致しました。
教職員自己評価においては、教職員一同、園全体、学年、クラス、自己自身を改めて客観的に見つめ直すことにより、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。
今年度の学校評価の結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努め、子ども達の豊かな心を育てていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

清く ■かがやく瞳

正しく ■ゆたかな心

たくましく ■のびゆく身体

かがやく瞳にであいたい。ゆたかなところを、そだてたい。

教育方針

「自立心・自主性の育成」

- ・ 考える子
- ・ あそびの中でたのしく最後までやりぬく子

教育の特徴

1. のびゆく身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. ゆたかな心を育てる。(音楽リズム、造形活動を通して)
3. 輝く瞳・あらかず喜びを共感する。(自ら創意工夫する活動を通して)
4. 「6つの心」が自然と身につくように育てる。(社会・言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を理解する目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んで行くための姿勢を身に付ける。

本園がめざす教育目標に沿い、教職員の自己研鑽・研修に励み、主体的に教育内容の理解を深める姿勢を身につける。また、自園の特色を生かした教育を認識し、指導計画を振り返ることにより、日々の実践に挑むことを重点目標とする。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取組状況
1	教育方針・目標	園の教育目標や方針を共有することができるか。また、そのためにどのような取組がなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標や方針に基づき、教育要領の理解を深め、伸びやかに幼稚園教育の実践ができるように、職員間で話し合いを重ねている。(職員会議、学年会議、リーダー会議) また行事ごとの会議の際も、ぶれない目標・方針のもと、変化する社会や保護者の考えに適応し実践するよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、日々の実践に活かし取り組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 週案は、学年毎に毎週会議を行い作成し、教職員間において共通理解を図っている。また異学年間においても共通理解ができるようなファイリングを実践し、園全体として共通理解に取り組んでいる。 定期的にティーム保育を行い、担任が入れ替わることにより教師と子どもの学びや刺激になるようまた園全体で一人ひとりの子どもをみつめるよう共通理解に取り組んでいる。 保育内容・疑問・反省などは、毎日日誌に記録し、園児の個々の状態を把握し園長が全て読み、コメントを記入している。さらに直接相談する場合も多く、その際は適宜アドバイスや会議を行い、日々の実践に即座に活かしている。 行事や学期ごとの反省会を記録し、次年度に活かしている。 社会状況に応じたカリキュラムの見直しや、クラスや園児の個々の状態を把握し、実践につなげている。 特別な支援が必要な園児の個別の指導計画にも取り組んでいる。
3	指導と関わり	園児個々の興味や関心、能力に応じて活動することにより、成長に応じた関わりがなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育遊びや造形などの動的保育及び音楽や茶道などの静的保育など、静・動の保育を総合的に実施し、創造的な活動を実践している。 ネイティブ講師によることばの時間を設け、国際性の育成を実践している。 教員と園児と一緒に活動する中で、園児の主体的な活動を展開できるよう、個々の興味や関心に共感し、支え合い、学びあいを実践している。

				<ul style="list-style-type: none"> 園児を連続的に成長する1人の個人として捉え幼小中と継続して生きぬく力を月齢に応じた成長の中で育成し、小学校への継続教育を推進しスムーズな移行を実践している。特に年長児の教員については、小学校や大学の教員と共に保育や授業内容について研究し、円滑な接続について意識して取り組んでいる。
4	教育環境の構成	興味や能力に応じた活動及び異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができていますか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園舎全体を教具として捉えて設計し、園庭の遊具、室内の自由遊びのための遊具を追加導入するなど、園児の興味や関心に応じて、安心して好きな遊びができるように環境作りを実践している。 異年齢の交流が自然にできるような部屋割りを実践している。遊びだけではなく、トイレや片付けなど年長園児が年少園児を自然とサポートできる環境の構成を行っている。 園内のいたるところ(掲示板、壁、トイレ階段)に掲示や園児の作品を展示することにより、様々な刺激をうけるよう配慮している。
5	研修・研究への取組	研修、研究への取組が十分に行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 音楽・絵画・造形・体育・茶道など講師を招き随時公開保育や園内研修に取り組んでいる。また、技能向上を目指し、ピアノ講習、パソコン講習など様々な取組みを実践している。 外部研修として、多岐にわたる分野の研修会に積極的に参加している(年80日前後)。 前述の通り、年長児の教員については幼稚園、小学校、大学の教員で構成されている研究会に所属し、保育や授業内容および材料について研究し小学校への円滑な接続について意識して取り組んでいる。 研修会および研究会を開催し、自園から啓発し、意見交換会や交流の場を設けた。(幼稚園、保育園、小学校、中学校の教諭および大学教授等)
6	安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 消防署避難訓練(火災と地震)年2回、警察署交通安全講習年1回を行い、園内避難訓練を随時実施し緊急時に備えている。 教職員は全員、年に1度救急救命講習を行い全員が普通救命講習修了証を取得。AEDの設置。

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、警察署の協力の下、不審者侵入者対応の実践的な防犯講習を受講している。 ・ 来園者の園内立入証の着用、防犯カメラ、防犯設備、非常通報装置を設置している。 ・ 地域の緊急情報にも速やかに対応し、保護者に手紙やメール配信等を通じて周知徹底させている。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い、うがいを徹底実践し、各所に消毒液の配置などを行い外部からの来園者にも奨励している。 ・ 各部屋に空気清浄機・消毒液を設置し、ウイルス対策にも力を入れている。 ・ 嘔吐・下痢時の対応はマニュアル化しており、嘔吐セットを園内だけでなく園外保育、バス乗務時にも常時利用できるようにしている。 ・ 給食など食品を扱う際には細心の注意を払い、マスク・手袋の完全着用および手のアルコール消毒を実践している。 ・ プール遊びの時もクラス交代ごとに塩素濃度を計測し、必要に応じて量を調節している。 ・ 登園時降園時の視診や、必要に応じて検温を行い、また適宜に水分補給をし、園児の体調管理に努めている。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣小学校や中学校との交流を実施し、社会への関わりを促進している。 ・ 老人ホーム、デイサービス慰問、地域クリスマス会での出演依頼を積極的に実施し、また様々な園の行事において老人会の観覧など、相互交流を実践している。 ・ 住吉神社 御田行事、すみ博 れんげ畑行事等参加し、人々との関わりを広める。 ・ 花とみどりのまちづくり推進において、雑草抜きなどにも積極的に参加している。 ・ 警察の行事に参加することにより、交通安全意識の向上につなげている。 ・ 都会の中にもありながらも園の中にある樹木や畑の苗を育て自然との関わりを持ち、土や水、実りなど肌で感じるよう取り組んでいる。落ち葉や木の実を造形や絵画に利用するなど、園児の成長において自然との関わりを重視している。 ・ 小鳥、亀、金魚、青虫、ザリガニ等の小動物を育てることで生命の大切さを知る。

<評価の基準>

A	十分に達成されている	B	達成されている	C	取組はされているが十分ではない	D	取組が不十分である
---	------------	---	---------	---	-----------------	---	-----------

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	<p>人とかかわる力を育てる『協同して遊ぶ経験』など教育課程の工夫を実践できるよう、これまで以上により具体的な保育カリキュラムの構築に取り組んでいきたい。</p> <p>引き続き、考える力を養うなど園児の主体性を育ていけるような保育実践を継続的に行い次の学年へ円滑な連携ができるよう情報の引き継ぎにも重点をおきたい。</p> <p>特別な支援を必要とする園児に対する個別の指導計画。</p>
2	研修・研究への取組	<p>園外の研修については、教員が主体的に、自分の苦手とする分野や興味のある分野について多岐にわたる内容を受講し、その後レポートなどを作成回覧し、教職員間で学びを共有している。しかし、教職員間での学びの共有をより強固なものにするために、園内研修において発表や意見交換の機会を設けるなどの工夫が必要である。このような発表の機会は、発表を聞いている教職員の学びを促すだけでなく、発表者自身の学びを向上させることが期待できるので、日常の業務において時間的制約はあるが進んで取り組みたい。</p> <p>自園が研修会や研究会を開催することにより、改めて日々の保育を考察し、発表することで、新たな学びに繋げるとともに、他園との意見交換で更に学びを深められた。今後も積極的に取り組む。また鑑賞会等のバランスを創意工夫し、芸術や伝統文化に関心、感動を持ち生きる力とする。</p>
3	安全管理体制の整備	<p>避難訓練、交通安全講習、具体的な防犯訓練の実施、救命救急講習の受講は引き続き実践していくが、さらに、大型地震や津波などにも備えた緊急時対策について地域と連携し、より緻密な計画を立てたい。 _</p>
4	保護者に対する情報発信	<p>保育目標や内容、子どもの活動については、園便りやクラス便りなどの手紙、そしてインターネットのホームページなどを活用し保護者に対して情報を発信している。しかし紙面の都合により保育に対する思いが伝えきれていないのも現状である。保護者からもっと幼稚園の保育について伝えてほしいという要望もあり、行事や参観で表出されている部分だけでなく、それにいたるまでの取り組みや、活動のねらいを手紙や保護者の集まる時、講演会を設けるなど、これまで伝えきれていない部分について発信していく必要がある。</p>

V. 学校関係者の評価

<p>上記の通り、適正に実行されていると判断できる。</p> <p>特に指摘すべき事項はなく、諸事熱心に取り組まれている。</p> <p>(大学教授 3 名、地域振興会会長 3 名、保護者会実行委員 8 名 計 14 名委員会により)</p>
